

ミュージアム 通信

女性の一生を彩る「紅」

[資料室談議 第7回]

『都風俗化粧伝』より抜粋・解説
江戸の女性の着こなし術

[商品開発レポート]

甦る江戸の化粧道具－板紅
板紅廉価版・開発エピソード



「当世菊見図」(部分)・歌川国輝・国立国会図書館所蔵

女性の一生を彩る「紅」

魔を祓い、身体を守る
「紅」は女性の味方

古来、日本人は物事の節目ごとに神様に祈りや感謝の気持ちをはよひげ、人生への決意を新たにする儀礼を行ってきた。安産祈願、初宮参り、七五三、婚礼、還暦は、現代も続く通過儀礼である。

地域によって差はあるが、「紅」は女性が一生の内に体験する通過儀礼や年中行事に用いられてきた。その理由のひとつには、日本において「赤」が魔を祓う神聖な色とされてきたことが挙げられる。また、「紅」が血の道を改善するとされ、女性の体を守る薬代わりに用いられてきたことにも関係があるようだ。今号では、通過儀礼や年中行事で紅がどんな意味を持って使われてきたのかを、幼少時代を中心に紹介するとう。

子供の幸せを願う

親の想いが託された紅

【帯祝い】

妊娠五ヶ月目の戌の日に、安産を祈願して妊婦に腹帯を巻く儀式。紅白の絹地二筋と白い木綿一筋の帯が、妻の実家から贈られる。この帯の端には、「戌」や「犬」「寿」、神仏祈願の文字を紅で書くことがあった。

【湯上と産着】

昔は、産後に母親や赤ん坊が命を落とすことが少なくなかった。そのため、産後「産養い」と称して親戚や知人を招き、祝宴を催すことで邪悪なものを祓おうとした。また、赤ん坊を産湯につかわせた後、おくるみする布・湯上を紅で染める風習もあった。もともと湯上でおくるみすることには、邪悪なものの中から隠すという意味があり、それを紅で染めることで更なる力を得

ようとしたのであろう。

生後七日目に入ると、湯上から産着に着替える。この産着も疱瘡よけのまじないとして、紅や茜で染められた。



湯上げの端を、紅で染めた／協力：其角堂

【初宮参り】

生後三十日前後に産土神に詣でて、地域の一員として仲間入りする儀式。赤ん坊の生命は、まだ産土神の管理下にあり、霊界と人間界の中間にある不安定なものと思われていた。従って、宮参り時の産着には、魔除けのためうこん染めや紅染めが好まれた。

また、初宮参りの際、赤

ん坊の額に「犬」、または男児は「大」、女児は「小」と紅で書いた。これも魔除けを意味し、現在も関西地方の一部ではこの風習が残っている。

【雛祭り】

女兒の誕生と成長を祝い願う儀式。現在のようない雛人形を飾って祝う「桃の節句」が定着したのは、江戸時代に入ってから。初節句には、親族や知人から雛調度あるいは人形など様々な祝物が贈られた。その返礼として菱餅を配った。江戸時代の中



享保雛／協力：河北町紅花資料館

期以降、人形の衣装や装飾も華美を極め、紅染めの衣装を纏った雛人形も作られるようになった。

また、菱餅が現在のようになり三色になったのは明治期以降。草餅の緑色は健康を、紅で色付けされた桃色の餅は魔除けを、白餅は清浄を表した。

【七五三】

子供の健やかな成長と長寿を祈願する儀式。男児女児ともに三歳は髪置（髪を伸ばし始める）、男児五歳は袴着（初めて袴を着る）、女児七歳は帯解（付け帯を解く）といって、吉日を選んで祝った。今日の七五三に近い形になっていくのが、江戸の中期以降。親達は子供の晴着の豪華さを競い、盛大に祝った。しばしば浮世絵には、紅を点し、紅染めの晴着と思しき華やかな衣装をまとった童女の参詣姿が描かれた。

吉日を選んで祝った。今日の七五三に近い形になっていくのが、江戸の中期以降。親達は子供の晴着の豪華さを競い、盛大に祝った。しばしば浮世絵には、紅を点し、紅染めの晴着と思しき華やかな衣装をまとった童女の参詣姿が描かれた。



赤い着物は、魔を祓うとされた／宮迫奇贈・勝部様

七五三以降は、婚礼、還暦と続く。婚礼では、花嫁化粧や衣装に紅が用いられた。還暦では、紅で染められたちやんちゃんこや頭巾を身につけ、長寿を祈願したという。

通過儀礼の根本には、「子供が無事に育ち、長生きできるように」といった人々の願いが込められている。女性が子供を産み育てていくうえで、その節目となる儀礼に「紅」が用いられたのは、自然なことであつたのだろう。

『都風俗化粧伝』より抜粋・解説 江戸の女性の着こなし術



「立」 ば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花

これは古くから美人を喩える際に用いられたきた言葉である。女性の美

しさがその人の立居振舞いや仕草に表れるものであることを簡潔明瞭に示している。

『都風俗化粧伝』・容儀之部には、「容儀、風俗は婦人第一の心得」であるとし、立居振舞いや歩き姿の善し悪しが、顔の造作のそれ以上に女性の容姿として重要であると説く。動作振舞いが乱暴粗雑なのは言うまでもないが、品(しな)を作ろうと意識するあまり、極端な内股で歩いたり、腰を振るようにして歩く姿はかえって見苦しいものだと忠告する。歩き姿は「背筋をしゃんと伸ばし、首は真つ直ぐ、顔は仰のいたり俯いたりせず(中略)すなりとありたいもの」、これが江戸にあって美しいとされる姿であった。



現代の女性にとって体型カバーは服装選びにおいて重要テーマである。しかしこの行為、実は江戸時代の女性にも共通するものだった。今回は、江戸の女性のスタイルアップ着こなし術を紹介する。

しかし、姿勢を正し、立居振舞いに心を配っても、その人本来の体型による印象の違いは避けられない。同書には、背の低い人、高い人別の装いポイントや、いかり肩をなで肩に見せる方法、大きなお尻(出尻)を隠し、すっきり見せる装い方など、体型を考慮したうえで各々に適した着装を次のように述べている。

- 【背の低い人】
 - ①帯は細めに仕立て、結び目の手先を長く出さず、高い位置で結ぶ。
 - ②衣類の模様は縦長効果が働くもの(縦縞など)にする。
 - ③髪型は、鬘を高く結い、目線が上に行くようにする。
 - ④足運びは爪先立ちするような心持で行う。
 - 【背の高い人】
 - ①帯は平たく結び、結び目の手先を長くする。
 - ②衣類の模様は横長効果の働くもの(横縞など)にする。
 - ③髪は低い位置で結う。
 - ④足運びは踵から。
 - 【いかり肩の人】
 - ①心持ち背を反り、両肘を脇腹につけて肩を押し下げ窄めるようにし、俯きがちに歩く。
 - ②襦袢の衿を前に出す。
 - ③髪は少し高い位置で結う。
 - 【出尻の人】
 - ①背筋を伸ばし、耳と肩の位置が揃うように若干背を反らし、鼻と臍とを結ぶラインが直線になるように体をのばす。
 - ②帯をだらりと結び下げて、尻のあたりを隠す。
 - ③足運びは爪先から行う。
- さて、どれも江戸の女性の苦心ぶりがうかがえる事例である。

『甦る江戸の化粧道具―板紅』作品人気投票一位の作家が制作
二〇〇九年春、珠玉の化粧道具板紅を数量限定発売

今春開催した特別展「甦る江戸の化粧道具―板紅」では、ご来場の皆様に、展示作品の中から「お気に入り」の板紅を一点お選びいただく形で、人気投票をしていただきました。栄えある一位に輝いたのは、『波の花』を制作した稲見なつえさんです。稲見さんには、新たに板紅を制作していただき、来春、当館より数量限定で発売いたします。

特別展で出品された板紅は全て一点物でしたが、今回は複数制作し、販売価格もお求めいただきやすい五万円前後にする予定です。廉価版とはいえず、機能的で美しい板紅を制作できるように真摯に取り組んでおります。



『波の花』 稲見なつえ作

プロフィール／石川県輪島市で漆芸技術の習得に励む研修生。同展に出品した『波の花』は、有識者による作品審査会で準グランプリを受賞。また、来館者による作品人気投票では、ダントツで一位を獲得。今後の制作活動が大いに期待される漆芸家。

板紅の開発は、七月よりスタートいたしました。「ボディは、真鍮？銀？ステンレス？木？」、「女性の手にしっくりとなじむフォルムやサイズは？」、「デザインは、『波の花』を踏襲して…」など、試行錯誤しており、九月にはボディのサンプルが上がる予定です。

女性の心が華やぐような、魅力的な板紅を制作できるように邁進いたします。で、どうぞご期待ください。今後、板紅開発状況は、当館運営の紅ブログでアップいたします。ぜひ、アクセスしてみてください。
【紅ブログ】
<http://isehan.weblogs.jp/>

Information

かわら版

講座のご案内

当館は、お陰様で9月に開館2周年を迎えました。多くの方にご来場いただきましたことを心より感謝申し上げます。さて、好評いただいております「江戸の化粧再現講座」を、今後は1月・4月・7月・10月の年4回、開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

■「第3回江戸の化粧再現講座 ～秋の外出時の化粧～」

江戸時代の女性たちは、紅・白粉・墨で粧いました。本講座では、秋の外出時の化粧を学芸員の解説とともにご覧いただけます。

要予約・定員各回20名・参加費無料

2008年10月4日(土) 第一回 午前11時～12時
第二回 午後2時～3時

※内容・申込詳細は、ホームページに掲載いたします。

新商品発売のご案内

伊勢半本店では10月1日(水)～11月30日(日)の間、小町町「手毬」を期間限定発売いたします。

写真の器の他に七五三用として、新しいデザインの器が仲間入り。女の子様が初めて点す口紅には、本紅をお勧めいたします。



Since 1825

伊勢半本店  ミュージアムのご案内

●開館時間／午前11時～午後7時 ●休館日／毎週月曜日 ●入場無料
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL&FAX:03-5467-3735
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehan.co.jp>